

まちなかで食の市場(マルシェ)を開催し、地域周辺も含めた魅力を広く情報発信している取組
(北海道旭川市)

【支援措置】
中心市街地活性化ソフト事業 総務省 [事業経費の1/2を特別交付税により措置]

【事業費】
50,000千円(支援措置対象経費:50,000千円)※平成28年度
(参考)実行委員会の総事業費 80,231千円

中心市街地の活性化や賑わいの創出を図るとともに、旭川市及び北北海道地域の農畜海産物や加工食品などの販路拡大を図り、多彩で豊かな食の供給基地である北北海道の魅力を広く発信することを目的に、中心市街地(旭川駅前広場、平和通買物公園、七条緑道、常磐公園)を会場に、旭川市をはじめとする北北海道地域や、旭川市の交流都市などの地域自慢の食を一堂に集めた食の市場(マルシェ)として、「北の恵み 食べマルシェ」を開催する。

2回目となる平成23年度以降、毎年9月の敬老の日を含む3日間で開催し、共催事業である駅マルシェの出店者と合わせて、毎年約300店舗が出店している。北北海道地域で行われるグルメイベントでは最大であり、令和元年度で10回目の節目を迎えた。

平成26年度以降、売上高は2億円前後で推移し、来場者数は台風の影響で2日間開催となった平成29年度を除き、毎年100万人超を記録している。特に、平成27年度は大型連休(シルバーウィーク)となったことから5日間の開催となり、過去最多となる2億3,690万円を売り上げ、約125万人が来場した。

実施主体は旭川市や旭川商工会議所などの関係機関で構成される実行委員会であり、旭川市は、全体事業費から出店料等の事業収入やその他収入を除いた額を、負担額(但し、予算の範囲内において定める額)として積算している。市負担金は、会場設営・運営費や広報宣伝費、事業費等に充てられている。

例年100万人を超える来場者を記録しており、そのうち、令和元年度においては約3割が旭川市以外からの来場であったことから、旭川市民はもとより、北海道内でも広く認知され、旭川市・北北海道を代表するイベントとして成長しており、地域資源である「食」の魅力を広く発信するとともに、中心市街地の賑わいづくり、市民及び観光客の中心市街地への来街促進に寄与している。

《参考》近年の売上額及び来場者数

令和元年度 104.5万人

平成30年度 102.2万人

平成29年度 85.6万人(台風の影響により2日間開催)

平成28年度 103.5万人

【計画書の事業名】「北の恵み 食べマルシェ」開催事業

